

TAD Letter | 15



第13回世界ポスタートリエンナーレトヤマ2021(IPT2021)

The 13th International Poster Triennial in Toyama 2021

2021年7月10日(土)～9月5日(日)



企画展「第13回世界ポスタートリエンナーレトヤマ2021」ポスター Design：三木健

世界ポスタートリエンナーレトヤマ(通称: IPT)は、今日のポスターデザインの状況と成果を紹介するため、国際的に作品を公募・選抜する日本で唯一の国際公募展です。1985年の創設以来、3年に1度のトリエンナーレ方式で開催を続けるなかで、現在では世界的に注目されるポスター公募展に数えられています。

13回目を迎える今回の公募では、紙媒体のポスターを対象としたA、B部門、若手対象のデータ応募によるU30+Student部門の3つの部門で作品を募集しました。新型コロナウイルスの感染拡大により、国と地域を問わず社会全体が様々な制約を受けた中でしたが、世界64の国と地域より、5,943点のポスターが寄せられました。

これらの応募作品にたいし、2021年4月の第一次審査員により行った厳正な審査の結果、全部門あわせて400点が入選となりました。これらの入選作品のなかから、7月10日の開会直前に行われた第二次審査において、最高賞となるグランプリをはじめとする各賞を決定しました。

IPT2021では、これら入選作品に実行委員・審査員作品を加えた充実した内容で、世界の最先端をゆくポスターデザインを紹介します。IPT2021の最新情報は、富山県美術館ウェブサイトやIPT会場でお知らせします。

開催概要

開催時間	9:30-18:00(入館は17:30まで)
休館日	毎週水曜日(ただし、8月26日-9月5日は無休)、8月10日
会場	富山県美術館2階 展示室2、3、4
主催	富山県美術館
後援	公益社団法人 日本グラフィックデザイン協会(JAGDA) 東京アートディレクターズクラブ(TOKYO ADC)、東京イラストレーターズ・ソサエティ(TIS) 東京タイプディレクターズクラブ(Tokyo TDC)、「ポスターの街・とやま」実行委員会
協力	YKK株式会社
観覧料	一般 1,100(850)円、大学生 550(420)円、高校生以下 無料 ※ () 内は20名以上の団体料金

関連イベント

会期中のイベントの詳細は、当館ホームページやSNS等でお知らせします。

IPT2021実行委員・審査員(五十音順)

IPT2021実行委員	色部義昭、佐藤卓、藤崎圭一郎、三木健、雪山行二
第一次審査員	色部義昭、川上典李子、佐藤卓、藤崎圭一郎、三木健、室賀清徳
第二次審査員	浅葉克己、佐藤卓、松永真、三木健

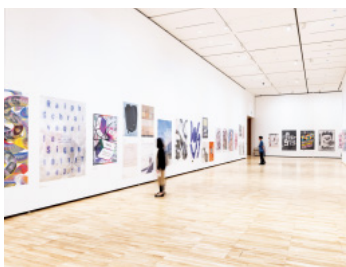
新型コロナウイルス感染拡大により海外審査員の招聘が困難となったため、IPT2021の全審査は国内審査員で行いました。



IPT2021 第一次審査員6名による審査協議の様子(撮影:柳原良平)
左より:室賀清徳、佐藤卓、三木健、色部義昭、川上典李子、藤崎圭一郎



IPT2021 第一次審査の様子(撮影:柳原良平)



前回のIPT2018の会場(撮影:柳原良平)

01

世界からの多種多様な表現

アジア、ヨーロッパ、中東やアメリカ大陸など、64の国と地域からの応募作品より選抜された入選作品400点は、その表現も多種多様です。劇場のポスターや広告から、社会的なメッセージを乗せたもの、視覚に強く訴えるものまで、ポスターデザインの最先端を知る機会です。

02

IPT2021の会場にあつまる、世界からのメッセージ

ポスターを、視覚を通して伝える手紙のようなものと例えてみれば、IPTの会場は、世界中のデザイナーの手で届けられた、言葉を超えたメッセージがあふれた場所といえます。海外に出かけることが難しい今、IPTの会場で世界からのメッセージにふれていただきたいと思います。

03

実行委員・審査員が自主制作部門のテーマ「INVISIBLE」でポスター制作

IPTの自主制作部門(IPT2021ではB部門、U30+Student部門)では、毎回公募テーマを設けています。今回のテーマは「INVISIBLE(見えないもの)」。

このテーマで、実行委員・審査員のデザイナー5名の方々に新作ポスターを制作いただきました。松永真、浅葉克己、佐藤卓、三木健、色部義昭、いずれも世界第一線で活躍するデザイナーの各氏による「INVISIBLE」も大きな見どころです。

東山魁夷 唐招提寺御影堂障壁画展

2021年9月18日(土)～11月7日(日) 前期 2021年9月18日(土)～10月12日(火) 後期 10月14日(木)～11月7日(日)



企画展「東山魁夷 唐招提寺御影堂障壁画展」ポスター Design: 三木 健

東山魁夷(1908-1999)は、静謐で澄み切った叙情性を湛えた風景画で知られる日本画家です。戦後の日本画壇で高く評価され、その作品は今なお根強い人気を誇ります。数々の名作を残した東山が、10年もの歳月を費やして完成させた記念碑的大作が、律宗の総本山、奈良・唐招提寺御影堂の障壁画です。

御影堂は唐招提寺を創建した唐の高僧・鑑真和尚の尊像を安置するため、昭和39(1964)年に建立されました。その障壁画と尊像を納める厨子の制作を受託した東山は、日本の自然と鑑真和尚の故郷である中国の風景を、5室の障壁画、全68面に描きました。本展では、障壁画を支える梁や柱などで部分的に御影堂を再現して障壁画全点を展示するほか、日本と中国の各地を歩いて描き留めたスケッチもあわせて展示し、東山魁夷が鑑真和尚に捧げた祈りの美の世界を紹介します。

この御影堂は、通常、毎年6月6日の開山忌を含む3日間のみ一般公開されるため、この期間以外に東山の描いた障壁画を見ることはできません。また、御影堂では修理事業が進められており、現在、唐招提寺内で障壁画を見ることはできないため、本展は貴重な機会となっています。本展は2017年の茨城県近代美術館を皮切りに、全国を巡回してきましたが、障壁画が収まる御影堂の修理の完了に伴い、この巡回展も今年度で終了いたします。まだご覧になったことのない方は、是非ともこの機会に当館で東山芸術の神髄をご覧ください。

開催概要

開館時間	9:30～18:00(入館は17:30まで)
休館日	毎週水曜日(11月3日は開館)、9月21日、11月4日
会場	富山県美術館2階 展示室2、3、4
主催	富山県、東山魁夷展実行委員会(富山県美術館、北日本新聞社)、日本経済新聞社
特別協力	唐招提寺
協力	長野県立美術館 東山魁夷館
協賛	東亜薬品、日東メディック、日本海電業、北陸銀行、ユニゾーン、リードケミカル
観覧料	一般 1,500(1,200)円、大学生 1,000(800)円、高校生以下 無料、一般前売り 1,200円 ※()内は20名以上の団体料金

関連イベント

会期中のイベントの詳細は、当館ホームページやSNS、北日本新聞紙面等でお知らせします。



01

鑑真和尚の故郷の風景《揚州薫風》

《揚州薫風》は、国宝《鑑真和尚坐像》が安置される「松の間」を囲む障壁画です。御影堂は6月6日を含む3日間のみ一般公開されますが、この「松の間」は公開されないため、《揚州薫風》は本展のような機会がなければ見ることが出来ません。御影堂障壁画は全て必見ですが、特に《揚州薫風》は見られる機会の少ない障壁画ですので、お見逃しのないように。

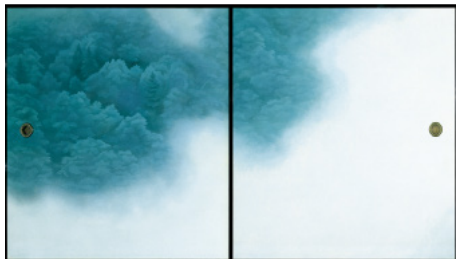
02

東山魁夷の黒部取材

東山は「上段の間」に描く山の風景の取材を、富山県黒部から始めました。黒部峡谷鉄道に乗り、数多くの写生を残した東山は、黒部渓谷で目にした風景について次のように記しています。「ここに展開して行く風景は、正に渓谷美の醍醐味を満喫させてくれるものである。それに、この渓谷は、いかにも日本的な感じが強い。古来、名高い渓谷は、日本的と言うよりは、中国的な味わいを持つ、いわゆる南画的な景觀である場合が多い。それに対して、黒部峡谷は深々と青葉若葉を繁らせて、潤いのある渓谷美を示している。」東山魁夷『唐招提寺への道』より抜粋



《唐招提寺御影堂障壁画 揚州薫風》(部分) 1980(昭和55)年 唐招提寺蔵



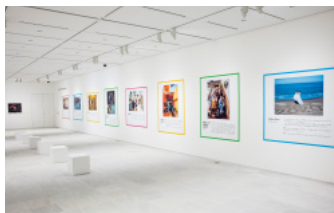
《唐招提寺御影堂障壁画 山雲》(部分) 1975(昭和50)年 唐招提寺蔵

アーティスト@TAD 浅田政志「私の2020年」

2021年3月20日(土・祝)~5月9日(日)まで、1階TADギャラリーにて「浅田政志〈私の2020年〉」を開催しました。「私の2020年」というテーマのもと、浅田氏のセルフポートレート作品1点と富山県の人々を撮影した滞在制作シリーズ8点に加えて、ワークショップ参加者の作品10点の合計19点の写真を展示。本事業の記録動画も紹介しました。写真を通して、参加した方々だけ

でなく、鑑賞した方々も自分自身の「2020年」という時間を強く思い返す展覧会だったでしょう。

開催初日には浅田氏による開幕記念トークイベントを実施。浅田氏が写真を撮り始めたきっかけや写真1枚1枚に込める思い、今回の滞在制作一連のお話など、「浅田政志の世界」をより身近に感じることができる機会となりました。



展覧会会場の様子 (撮影：浅田政志)



トークイベント会場の様子

TADアート・レクチャー 「心に作用するデザイン」



当館公式YouTubeにて配信

2021年6月11日(金)、富山県美術館ホールにて、TADアート・レクチャーの収録を行いました。「コロナ禍」の中、多くの方にご覧いただこうと、オンライン配信でのレクチャーを試みました。出演は、川上典李子当館デザイン・ディレクターと、鈴木マサル氏(テキストスタイルデザイナー)。前半、当館で使用しているデザイナーの椅子や、伊ッセイマケ氏デザインの当館制服を例に挙げながら、デザインについて、川上ディレクターよりお話がありました。後半は、1階TADギャラリーにて「鈴木マサルのデザインとみんなの富山もよう展」を開催中

(5月17日~6月22日)だった鈴木マサル氏を迎え、鈴木氏のデザイン作品の紹介とともに、どんな思いでデザインをしているのか、テキストスタイルデザインの特徴やそこにこめる思いを語っていただきました。



1階TADギャラリーの展覧会会場の様子 (撮影：大木大輔)

おみやげ オープンラボ「第13回世界ポスタートリエンナーレトヤマ2021」関連企画

もじって描こう！デザインカードづくり

文字のかたちや、発音した時の音、文字の持つ意味について考えながら、絵を描いて自分なりに「ひらがな」をデザインします。ハッシュタグをつけて画像をツイートしてもらくと、みなさんの作品画像がTwitter上で見られます。

#おみやげオープンラボ

#デザインカードづくり

開催期間 2021年7月10日(土)～9月5日(日)

配付時間 9:30～18:00

※当日分の材料がなくなり次第終了

配布場所 富山県美術館3階ラボ（アトリエ内）



お知らせ

「TADさいさいカード」のご案内

富山県美術館のイベント・ワークショップのポイントカードです。イベント・ワークショップにご参加くださった方にお配りしています。1回参加するごとに1ポイントで、10ポイント集めると素敵なプレゼントをご用意しています。



イベント案内

EVENT
01

GEIBUNオープンエアミュージアム in環水公園2021

開催概要

主催 富山大学芸術文化学部・富山県美術館

後援 富山県

開催期間 2021年9月4日(土)～9月26日(日)

開催場所 富岩運河環水公園および富山県美術館3階アトリエ

※都合により会期や開催場所が変更になる場合がございます。ご了承ください。

EVENT
02

富山大学芸術文化学部 卒業制作展セレクション

主催 富山大学芸術文化学部・富山県美術館

後援 富山県

開催期間 2021年9月18日(土)～9月26日(日)

開催場所 富山県美術館1階 TAD ギャラリー

プライ・チェア

ジャスパー・モリソン

1988年

ビーチ材合板

84,5×39,5×47,0 (47,5)



富山県美術館3階にある展示室5は、デザインのコレクションの展示コーナーである。直ぐに目に入るのがさまざまなカタチと色とりどりの椅子のコレクションである。この10年、ミッドセンチュリーブームが続くが、その代表格はチャールズ&レイのイームズ夫妻だ。同時期の日本人デザイナーとしては剣持勇、柳宗理の名前が挙げられる。特に剣持勇のラウンジチェアは、いつかは購入し使用したいと思っている。剣持と10歳年が違う長大作のパーシモンチェアは、自宅のダイニングの椅子として愛用している。生前長さんと親しくさせて頂いていたので、ふっと思い出に帰る椅子である。

椅子には人それぞれの出会い、思い出がある。今回悩みに悩んだが、私と同年代のジャスパー・モリソンの「プライ・チェア (Ply-Chair)」を取り上げたい。1988年にヴィトラ (独) から発売された椅子である。合計9のパーツで出来た極めてミニマルな椅子。日曜大工で使うような安価な材料プライウッド (成形合板) を用い、まるでハンドメイドで作り上げたような椅子である。しかし、実に良く研究され練られた椅子である。

1988年、ドイツのベルリンのDAADギャラリーでの

展覧会「Some New Items for the Home, Part I」の為に制作された椅子である。このミニマルな椅子からは不思議な存在感が漂う。極めて禁欲的な椅子と言える。後にジャスパーは「スーパーノーマル」というデザイン哲学の旗手と言われるようになった。「当時多くの報道を受けていたエットレ・ソットサスのメンフィス運動に対する反応でしたが、日常生活の機能的側面を完全に無視しているようで、部屋に椅子が必要だったので自分で作ることにしました。」とHPには記されている。

さて、この椅子の話題、評価によりジャスパー・モリソンは、イタリアの複数の家具会社からのオファーを受け意欲的なデザイン活動を加速していく。そしてやがて日本とも繋がる。

その存在感を確立したのは、2000年にオープンした美術館テートモダン (建築: ヘルツォーク&ド・ムロン) のカフェ、レストランに使用されたカッペリーニ社の椅子である。スーパーノーマルな椅子ひとつで、その後の人生が一変した。椅子とはそういったモノかも知れない。故に世界のデザイナー達は、飽きることなく椅子のデザインに挑み続けている。(副館長 桐山 登士樹)

富山県美術館 (TAD)

〒930-0806 富山県富山市木場町 3-20 (富岩運河環水公園内)

TEL 076-431-2711 FAX 076-431-2712 <https://tad-toyama.jp/>